

記 入 日 2017 年 01 月 09 日

## 1. 概 要

実践団体名	豊橋障害者(児)団体連合協議会 (豊橋市障害者福祉会館さくらピア)		
連絡先	0532-53-3153		
プランタイトル	さくらピア いつもの場所で 身近な防災		
プランの対象者※1	障がい者 全ての人々	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

さくらピア避難所体験は、

- ①障害者の防災対策を障害者自身が主体性を持って備えていくこと
- ②地域住民が避難所で災害弱者といわれる人たちと共同生活を送る為に必要な配慮を体験の中で具体的に学び合うことを目的としています。

防災活動を特別扱いせず、日常生活の延長線上にある事として、福祉、防災、教育の分野が手を携えて取り組んでいく「みんなの防災」を目指しています。

## 【プランの概要】

- ・自主活動の定例会時に「防災タイム」を実施。防災ラジオドラマを聞き、避難経路の確認をする。
  - ・「夏休み親子防災教室」を開催し、親子で防災頭巾作り、防災手話を体験する。
  - ・さくらピアサマースクール(障害児余暇支援事業)に防災釣りゲームを導入する。
  - ・「さくらピア避難所体験」で東北の被災障害者から実際の体験談を聞く。
- また、障害種別に応じた備えを学習する。

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・参加者層の拡大
- ・福祉と防災と一緒に学ぶ
- ・障害児・者の習熟度に合わせた防災企画
- ・防災イベントを身近により具体的に

## 2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	年間計画立案 (前年から)	防災タイム協力依頼 日程調整 勤務調整 消防署員が現場確認	
5 月	職員勤務シフト調整 チラシデザイン	避難経路の安全確認 アンケート作成 防災手話講師依頼 行政に協力依頼	防災タイム 25 回
6 月		高校へ釣りゲーム作成 依頼 避難所体験チラシ印刷	防災タイム 17 回
7 月	避難所体験微調整 展示物企画	親子教室担当打合せ サマースクール実行委 員会	防災タイム 4 回 親子防災教室 (7/30)
8 月	来館者に呼びかけ	避難所体験申込み開始	防災タイム 2 回 サマースクール (8/24)
9 月	進行確認 会場レイアウト	参加賞振り分け プログラム作成	避難所体験 (9/24・25)
10 月		避難所体験報告書作成 防災タイム報告書作成	避難所体験報告書配布 マンガ贈呈 販売開始
11 月		関係機関に配布依頼等	文化祭で防災釣りゲームコーナー 防災マンガを広め隊ボランティア 医療機関 440 か所にマンガ配置
12 月		最終報告書作成	自主防災会 470 町へマンガを配布 防災マンガ広め隊ボランティア活動
1 月			さくらピア利用者会議にて防災タイ ムの報告
2 月			最終報告会
3 月			3.11 を忘れない集い「防活ミーティ ング」(3/11)

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	さくらピア避難所体験 ①講演会 「3.11 あのとこのこと」
実施月日（曜日）	2016年9月24（土）
実施場所	豊橋市障害者福祉会館さくらピア 3階 大会議室
担当者または講師	・担当者・講師等の区分：講師 氏 名：森正義 所属・役職等：宮城県障害者社会参加推進センター所長 ・担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：本田(統括)、職員9名 所属・役職等：さくらピア事務長、さくらピア職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 3. 講演会 16. 避難・防災訓練
活動目的※5	8. 防災意識を高める
達成目標	被災当事者の体験談を聞いて、被災地の大変さを知り、教訓とする。 障害者の防災対策について市民が考えるきっかけとする。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>(1) 開会あいさつ(10分) 豊橋障害者(児)団体連合協議会会長 豊橋市危機管理統括部長 さくらピア事務長</p> <p>(2) 講演会(70分) 森正義氏 「東日本大震災 3.11 あのとこのこと」</p> <p>(3) 防災講話・避難訓練(30分) 防災講話(豊橋市消防本部中消防署山田氏)中に、訓練地震発生を想定し、参加者全員で避難訓練を行う。 ・3階大会議室から非常階段、布担架、イーバックチェアを使い会館向かい側の公園まで避難。(当日は雨天のため、1階ロビーへの避難となった。) ・初期消火訓練を行う。</p>   



<b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等	・人材 豊橋障害者(児)団体連合協議会会長（開会あいさつ） 豊橋市危機管理課（来賓あいさつ） 豊橋市消防本部中消防署（防災講話） 豊橋市旭校区消防団（避難訓練） 常友防災(株)（初期消火訓練） 豊橋市手話通訳者・要約筆記者（講演会） ・道具、材料 布担架、イーバックチェア（避難訓練） ダンボールトイレ、ダンボールベッド、防災用品(展示) 避難所体験のあゆみ(展示)
<b>参加人数</b>	146 人（うち 障害者・家族 73 人、一般 73 人）
<b>経費の総額・内訳概要</b>	90,520 円（講師謝礼、宿泊費、交通費、保険料）
<b>成果と課題</b>	<b>【成果】</b> 被災地の当事者の報告によって、より深く障害者の防災の問題を知ることができた。 <b>【課題】</b> 遠方の講師は、予算(交通費等)がかかるためなかなか依頼できない。
<b>成果物</b>	さくらピア避難所体験実施報告書、募集チラシ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  2 】※3

タイトル	さくらピア避難所体験 ②-(A)講演会「これからのこと」
実施月日（曜日）	2016年9月24（土）
実施場所	豊橋市障害者福祉会館さくらピア 1階 ロビー
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：堀清和 所属・役職等：臨床福祉学博士
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 3. 講演会
活動目的※5	8. 防災意識を高める
達成目標	障害者の防災対策について市民が考えるきっかけとする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	(1) 講演(110分) 堀清和氏 「こども・障がい者の命を守る備え」 (2) 質疑・応答(10分)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材 豊橋善意銀行事務局長(来賓あいさつ) 豊橋市手話通訳者  ・道具、材料 パソコン、プロジェクター、スクリーン
参加人数	77人（うち 障害者・家族 37人、一般 40人）
経費の総額・内訳概要	28,060円（講師謝礼、交通費）
成果と課題	【成果】 障害者防災の専門家に話を聞くことで、これからの対策のヒントをえることができた。  【課題】 参加者の気づきを団体や関係者、社会で共有したい。
成果物	さくらピア避難所体験実施報告書、募集チラシ



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  3 】※3

タイトル	さくらピア避難所体験 ②-(B) あそ防災
実施月日（曜日）	2016年9月24（土）
実施場所	豊橋市障害者福祉会館さくらピア
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 所属・役職等：レディースレク わたぼうし
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ x 2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 13. 体験学習
活動目的※5	1. 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	防災の要素をとり入れた遊びを体験しながら、より身近に防災を感じとる
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>(1) ダンボールベッド作り(20分) 宿泊体験で使用するダンボールベッドを組み立てる。</p> <p>(2) 防災ジャンケン(30分) ジャンケンに勝って防災絵カード1枚をくじ引き。 所定のセットを早く完成させたチームが勝ち。</p> <p>(3) 休憩(10分)</p> <p>(4) 防災釣りゲーム(30分) フェルト製の防災グッズを釣り、グループごとの釣果を競う。</p> <p>(5) 新聞紙の座布団作り(30分) 新聞紙8枚を編んで簡易座布団を作成。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>



<b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等	・人材 豊橋手話通訳学習者の会(手話通訳) 藤ノ花女子高等学校・縫製ボランティア(釣りゲーム制作) ・道具、材料 新聞紙、じゃんけんゲーム、釣りゲーム ダンボールトイレ、ダンボールベッド、防災用品(展示) 避難所体験のあゆみ(展示)
<b>参加人数</b>	55人(うち 障害者・家族 18人、一般 37人)
<b>経費の総額・内訳概要</b>	0円
<b>成果と課題</b>	<b>【成果】</b> ・チャレンジプランの報告会での情報をヒントに、新しく防災釣りゲームを実施し、話題作りができた。 ・ダンボールベッドを協力して組立てることによって、こどもも大人も参加者同士の交流ができた。 <b>【課題】</b> ・ゲームの楽しさを一過性のものにならないようにするにはどうしたらよいか。 ・障害種別によっては、取り組みにくい子もいるので、工夫が必要な場面もあった。
<b>成果物</b>	さくらピア避難所体験実施報告書、募集チラシ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  4 】※3

タイトル	さくらピア避難所体験 ③宿泊体験・非常食試食
実施月日（曜日）	2016年9月24（土）～9月25日（日）
実施場所	豊橋市障害者福祉会館さくらピア 体育館・ロビー・図書談話室・和室・児童保育室・トレーニング室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：本田（総括）、さくらピア職員 所属・役職等：さくらピア事務長、職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×10時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 13. 体験学習
活動目的※5	4. 災害を想定した訓練
達成目標	実際の避難所を想定しながら体育館での宿泊、非常食を体験する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>(1) 受付、夜食配布 (30分) 実際の避難所受入を想定した訓練(避難者名簿の記入等)</p>  <p>(2) 宿泊準備・朝食 (60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自持参の寝具で宿泊の準備をする</li> <li>朝食の準備を協力して行う (米をハイゼックス袋に詰める、味噌汁の具の下ごしらえなど)</li> <li>みんなで話そう「防活ひろば」 防災のあれこれについて、参加者同士が気軽に情報交換できるコーナーを設置</li> <li>「避難所 Go」 大地図上の自分の家と避難所をテープで結んで距離や避難経路を再確認</li> <li>出張理容室 聴覚障害者の理容師による散髪(先着3名まで)</li> <li>おやすみ子守唄 ソプラノ歌手とチェンバロ奏者による癒しのひととき</li> </ul> 



	<p>(3) 消灯  (4) 起床・健康チェック（看護師による）  (5) 味噌汁の調理  調理班…前日に宿泊者に声掛けして募集  (6) 非常食の朝食試食  (7) 清掃・片付け 体育館の清掃</p>    
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材</li> <li>・道具、材料等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材  豊橋市避難所要員 2 名（避難所受入訓練）  理容アサクラ・岩村理容（出張理容室）  小杉由子・柳沢知津江（おやすみ子守唄）  看護師 1 名</li> <li>・道具、材料  大地図（避難所 Go）、クラフトテープ、マジック  防災用品（展示）、避難所体験のあゆみ（展示）  ダンボールベッド、ブルーシート  夜食、米、味噌汁の具、ハイゼックス袋、食器</li> </ul>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>83 人（うち 障害者・家族 49 人、一般 53 人）</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>29,456 円（謝金、食料費、保険料）</p>
<p><b>成果と課題</b></p>	<p><b>【成果】</b>  初体験者は、体育館宿泊の大変さを実感し、リピーターより多くの気づきを得た。</p> <p><b>【課題】</b>  問題意識の高い人の参加は増えているが、興味を示さない人もいる。</p>
<p><b>成果物</b></p>	<p>さくらピア避難所体験実施報告書、募集チラシ</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  5 】※3

タイトル	さくらピア避難所体験 ④まとめと講評
実施月日（曜日）	2016年9月25（日）
実施場所	豊橋市障害者福祉会館さくらピア 3階 大会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：本田（進行）、清水（記録） 所属・役職等：さくらピア事務長、職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 2. 学習会
活動目的※5	8. 防災意識を高める
達成目標	意見交換をすることで、互いの認識を確認し、また新たな気づきを発見する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	(1) 参加の感想・意見をひとりずつ発表する (2) 講評者の意見をきく 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材 豊橋市社会福祉協議会事務局長（講評者） 豊橋市福祉政策課長（講評者） 豊橋市障害福祉課長（講評者） 豊橋市手話通訳者
参加人数	53人（うち 障害者・家族 26人、一般 27人）
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 障害者の意見を直接行政担当者に聞いてもらうことができた。  【課題】 学んだことを今後はどう生かすか。
成果物	さくらピア避難所体験実施報告書、募集チラシ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  6 】※3

タイトル	さくらピア防災タイム
実施月日（曜日）	2016年5月～8月
実施場所	さくらピア 各部屋
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：本田（総括）、廣田、溝口、清水 所属・役職等：さくらピア事務長、職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	48 コマ×15 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	16. 避難・防災訓練
活動目的※5	4. 災害を想定した訓練
達成目標	利用者全員の避難経路確認
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>①「防災タイム」の目的、流れを説明（担当者） ②防災ラジオドラマを聞く ③利用中の部屋から実際に避難し、経路を確認する ④感想、アンケート記入</p>    
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具、材料 防災ラジオドラマ「障害者が避難所に来たら」CD ラジカセ、アンケート用紙、鉛筆</li> </ul>
参加人数	688人（うち障害者 337人、健常者 351人）
経費の総額・内訳概要	0円


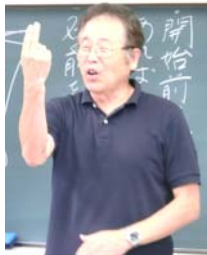



<b>成果と課題</b>	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・今まで防災活動に興味を示さない人も参加した。</li><li>・避難行動の現状を具体的な数値で表すことができた。 (エレベーターが止まったら自力で避難できない人 108人)</li></ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・防災タイムを継続、定着させる工夫</li><li>・他施設への提案</li></ul>
<b>成果物</b>	さくらピア防災タイム報告書

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  7 】※3

タイトル	さくらピア親子防災教室
実施月日（曜日）	2016年7月30日（土）
実施場所	さくらピア3階大会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：尾崎公枝 浅倉基雄、平松靖一郎ほか 所属・役職等：豊橋防災V.Cの会 豊橋市聴覚障害者協会、豊橋手話通訳学習者の会
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 2. ワークショップ 13. 体験学習
活動目的※5	10. 身近な題材で学ぶことにより、防災意識と障害者理解を高める
達成目標	親子で楽しく障害者防災を学ぶ
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>(1) 1 限目：防災頭巾作り (60 分)</p> <p>①材料の座布団を選ぶ ②作り方の説明 ③実際に親子で作成</p> <p>(2) 休憩 (10 分)</p> <p>(3) 2 限目：防災手話を覚えよう (60 分)</p> <p>①聴覚障害者体験談 ②6 グループに分かれて、 名前・住所の手話 災害時に使える手話単語(おいで・一緒に・逃げよう等)を学習 ③避難所絵カード・災害時コミュニケーション支援ボードの説明</p>     



<b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等	・人材 豊橋防災V Cの会(4人) 豊橋聴覚障害者協会(6人) 手話通訳学習者の会(12人)  ・道具、材料等 100均座布団(2枚)、針、糸 指文字スタンプ、単語カード 避難所絵カード、災害時コミュニケーション支援ボード ホワイトボード
<b>参加人数</b>	73人(34組)
<b>経費の総額・内訳概要</b>	19,709円(講師謝礼、防災頭巾材料費)
<b>成果と課題</b>	<b>【成果】</b> ・一般の親子が障害当事者とふれ合う機会になった。 ・防災頭巾作りは、低学年でも取り組みやすく夏休みの宿題にできた。  <b>【課題】</b> ・今年は聴覚障害者への理解を実施したので、来年は別の障害を。
<b>成果物</b>	プログラム・実施報告書・ポスター

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。



## 【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	さくらピアサマースクール
実施月日（曜日）	2016年8月24日(水)
実施場所	さくらピア 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：さくらピアサマースクール実行委員 所属・役職等：さくらピアサマースクール実行委員会
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×3時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1. イベント・行事 13. 体験学習
活動目的※5	1. 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	楽しく防災について学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>①受付後、ハイゼックス袋に米と水を各自つめる ②防災ジャンケン、防災釣りゲームの体験 ③非常食試食</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材 サマースクール実行委員会（企画・進行） 藤の花女子高等学校手芸部（防災釣りゲーム製作） 縫製ボランティア（防災釣りゲーム製作）</li> <li>・道具、材料等 防災釣りゲーム、防災ジャンケン 無洗米、ハイゼックス袋、輪ゴム、やかん、鍋</li> </ul>



	レトルトカレー、皿、スプーン、ブルーシート、机 ビブス、ウエットティッシュ ホワイトボード、カゴ
参加人数	16 人(障害児 8 家族)
経費の総額・内訳概要	12,728 円 (材料費・食料費)
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度障害の子どもたちが防災についてふれる機会が作れた。</li> <li>・非常持ち出し袋の中身について具体的な印象がもてた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害、重度身体障害、聴覚障害等、障害種が違ってても共通に取り組めるテーマや作業の工夫が必要とされる。</li> </ul>
成果物	防災釣りゲーム・実施報告書・ポスター

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に障害者施設で大きな事件が起こり、宿泊行事での危機管理について大変悩んだ。今まで参加者が体調を崩した場合や、徘徊行動になったらどうするかは想定していたが、悪意のある第三者の侵入については全く考えていなかったため、ニュースを聞いて愕然とした。侵入者に対する対処方法の研修に参加(研修の開催を市に強く要望してやっと開催)したり、関係者に相談するなどして予定通り実施することにしたものの不安が解消されたわけではない。</li> <li>・避難所体験は8年目になるのでマンネリ化しないように気を付けた。</li> <li>・限られた予算の中で、新しい企画をどのように充実させるかを工夫した。</li> </ul>
<p><b>準備活動で苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災タイムの実施時間に、急な来客や他の来館者の対応に手をとられて実施できない時があった。</li> <li>・防災タイムについては、定例活動の中に取り入れた利点とは逆に、運営側の勤務調整をはじめとする負担があった。通常の施設運営業務のなかで、同時に多くの回数を実施するのに苦勞した。</li> <li>・行事の内容をできるだけ具体的にわかりやすくロビー活動でPRした。</li> </ul>
<p><b>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所体験では、「不便さを体験する」ことを常に念頭においた。ケガや事故には細心の注意を払いながらも、その他の活動には運営側としてサポートしすぎないよう気をつけた。</li> <li>・普段さくらピアを利用していない初めての参加者が増え、会館利用の基本説明が必要になった。</li> <li>・親子連れの参加者が、親(講演)・子ども(遊び)に分かれて双方が満足できる企画を新しく試みたが、職員の数が少ないので少し大変だった。</li> <li>・防災タイムでは、参加グループの特徴に合わせてラジオを聞く時間の長短を調節した。</li> <li>・グループの定例活動の時間に避難訓練をしたことにより、防災意識をより身近なものにした。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	藤ノ花女子高等学校 豊橋市教育委員会 豊橋市立青陵中学校 豊橋市立向山・八町・旭小学校	釣りゲーム製作協力 後援 マンガ読後感想
保護者・ PTAの組織	豊橋市手をつなぐ育成会 豊橋市肢体不自由児者父母の会	企画・進行協力
地域組織	豊橋市旭校区消防団 豊橋市自主防災会	避難訓練協力
国・地方公共団体・ 公共施設	豊橋市社会福祉協議会 豊橋善意銀行 豊橋市消防本部中消防署 NHK豊橋 豊橋市 豊田市 神戸市	後援 講評 後援 夜食差入れ 指導 取材 運営協力 講評 運営協力
企業・ 産業関連の組合等	中日新聞社、東愛知新聞社(株)、ティーズ 東海日日新聞社、株式会社エフエム豊橋 常友防災(株)、東海消防設備(株) INOUEFACTORY 日本コカコーラ(株)、(株)サンカンパニー 三城米穀店、JA豊橋 理容アサクラ、岩村理容	後援 消火指導・防災品展示 防災品展示 飲料協賛 米・野菜寄付 出張理容室
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	豊橋防災VCの会 豊橋手話通訳学習者の会 レディスレクわたぼうし	防災品・活動展示 手話通訳協力 進行協力
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例活動の中に防災を取り入れる事によって多くの参加を得ることが出来た。</li> <li>・多くの人の視点から確認することで、改めて課題のを見つけることができた。</li> <li>・他の施設や団体でも取り組みやすい企画の提案ができた。</li> <li>・一般市民に障害理解を広めることができた。</li> <li>・夏休みに親子で楽しく活動しながら、防災と福祉を自然に関連づけて体験できた。</li> <li>・被災当事者の意見を聞いて、被災地の大変さを知り、教訓とすることができた。</li> <li>・障害当事者や家族の他障害への理解を促すことが出来た。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例活動の中に防災をとり入れることで、自然な形で多くの人の参加協力を得られた。このことを生かし、<b>既存のイベントの一部を防災の視点から利用して、違う形で企画運営していきたい。</b></li> <li>・多くの団体から問合せや施設見学に来ていただいているので、モデル事業として活用しやすい形式をさらに発案したい。</li> </ul>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>指定管理の5年契約のうち残りは2年</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 避難所体験：8回同じ形式で実施したので、9回・10回は新しい企画を試みる予定。</li> <li>2. 親子防災教室：継続。制作物や障害種別をかえて開催。</li> <li>3. 防災タイム：利用の曜日・時間帯(午前/午後/夜)が同じ団体を合同で実施、他団体との相互関係を作り、有事の際の協力体制を強化する。</li> <li>4. マンガ「障害者が避難所に来たら」を普及。</li> </ol>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

さくらピアは、障害者のさんか(社会参加)つながり(地域連携、団体連携)あそび(余暇支援)せいかつ(日常生活、社会生活の充実)を応援する目的で会館運営をしています。従って、防災教育は日常生活の延長線上にあることをみなさんに認識してもらうためには、もっと気軽に身近にできる防災企画が必要だと考えていました。実行委員会から採択後の講評で「報告は避難所体験に絞って」というご指摘がありましたが、全国的に見ると障害当事者が中心となる避難所体験はまだ少なく、当館としては8回を重ねて一応の成果はあるものの「まだみんなのものになっていない」感は否めませんでした。そこで福祉避難所に障害者だけが集まっても運営ができないこと、地域の避難所に障害者理解を広めることを課題として「防災タイム」と「親子防災教室」を新企画としました。



(自由記述: 1/3)

さくらピアの避難所体験で総務大臣賞と内閣総理大臣賞を受賞し、2度表彰式に行きましたが、周囲は防災を専門に活動している人ばかりでちょっと居心地が悪い思いをしました。私たちが普段接している分野の人とは雰囲気が違います。しかし交流会でお話ししてみると、どこも「障害者や高齢者の対策をしなければと思うが何から手をつければいいのかかわからない」という意見が多かったようです。

2016年4月から障害者差別解消法が施行され、障害者が健常者と同じように社会参加する機会を増やしていかなければなりません。しかし縦割り行政のままの防災施策は、一部の熱心な防災関係者と地域役員までに留まっているのが現状ではないでしょうか。

### <提案>

#### ①公共施設で防災タイムを～

さくらピアの28年度の防災行事4つのうち、一番成果が大きかったのは「防災タイム」です。新しい予算も必要なく、職員のやる気だけで実施できます。公共施設の利用者個々に、例えば9月の防災月間や春の総会時期に15分の防災タイムを設け、集まった人々に建物の避難経路を確認していただき、団体での安否確認や避難行動について考えるきっかけとしていただくことが出来ます。また、沢山の目で建築物の確認をするので建物の危険箇所などの早期発見に役立ちます。

小中学校では社会見学で地域の公共施設を訪れる機会もあると思いますが、帰る前にその建物の非常階段から移動するというのもできると思います。申し出を受けた建物管理の職員も再確認をするでしょう。訓練対象が確定している学校関係と比べると社会人の防災教育は難しいのは事実です。しかし趣味や市民活動、会議などで不特定多数の人が出入りする公共施設が連携する事によって身近な防災活動ができ、多数を動員できることが分かりました。

#### ②防災マンガの普及～

2年前に作成した防災ラジオドラマのシナリオを活用してマンガを制作、市内医療施設440カ所に配布、他に麺組合、美容院、喫茶店などに配置して防災と福祉理解の2つを市民に広げています。自主制作なので安価で内容が良く、今後も教育機関の副読本等として活用していただけるといいのではないかと考えています。



↑高校の手芸部に防災釣りゲームの作成依頼

#### ③他団体との連携方法の工夫～

団体との連携は、大切に重要な課題ですが、こまごまとした労力、時間とエネルギーを必要とする準備作業を要求されます。防災が本業ならそれも致し方ありませんが、防災活動の趣旨説明をし、書類を作り、時間調整、打合せして云々を考えると当事者グループ内で完結した方が運営者にとって楽な場合が多いのも事実です。どこの団体にどんな協力を要請していけば効果があり、お互いに成長できるのか。

(自由記述: 2/3)

「運営を若い人に」などと大雑把に協力を求めるのではなく、「適材適所」「できることをできる人ができる時」を念頭に置いて、協力しやすい依頼方法、具体的なイメージ、実戦経過報告の可視化を心がける事が効果的だと思います。高校の手芸部に防災釣りゲームの用具作成を依頼したことは、具体的な協力要請だったので快諾していただきました。同じように行政に対しても、今後はもっと具体的なイメージを持って職員を派遣していただけるように取り組みたいと思います。



#### ④障害者こそ他の人より防災意識を高く～

第1回避難所体験のとき、防災ボランティアの方が「厳しいかもしれないけれど、障害者こそ防災意識を高く持って命を守ってほしい」と言われました。障害者の死亡率2倍と言われた東日本大震災以降少しずつではありますが、政府も市民も災害弱者対策を考えはじめていることは当事者団体として実感しています。特に2016年は障害者差別解消法が施行されたこともあり合理的配慮が話題になりました。



個々の支援ニーズは報告書の中ではなく、地域の日常生活の現場で出会った人々により培われていくものだとことを自覚し、障害当事者団体がリーダーとなり、発信者となり、一般市民と協働して防災活動を実践できるように今回のチャレンジプランの成果を伝えていきます。

(自由記述: 3/3)